

鍋にサラダ油大さじ1杯を入れて弱火にかけ、温まつたらクミンを入りが出たらセロリ、ニンニク、ショウガを加えりするまで炒める。エは風味付けのほか、エダよりホール（粉末のもの）を。温まつれることで香りがより出る。

煮込んでいる間に、カレーに
トッピングする野菜を用意。
ハナスはへたを除き縦半分に
切り、皮に格子状の切り込みを入れる。カボチャは厚さ $1\frac{1}{2}$ cmに
切る。オクラはがくを取り包丁の刃先で穴を開ける。パプリカ
は食べやすい大きさに切る。手羽元の鍋とは別の鍋に、適
量の油を入れる。

引き出す狙いだ。
△手羽元の鍋にガラムマサラ

卓で暑い夏を乗り切りましたよ」と西村さんは話す。

۱۰۷

孫のお迎え 楽しみとやりがい

このため、お迎えの前日には夕飯の献立を考えておく、下ごしらえもしておく。早く食事の用意ができるとうにしておくのは何かと忙しいが、ぱくぱく食べる息子一家の姿にやる気が出で、つい張り切ってしまう。3歳の男孫が抱きついてくるのは幸せだ。

夫も「疲れるなあ」とぼやきながらも、1歳の孫娘をうれしそうに抱き上げている。その日を楽しみにしているようだ。

嫁もたまっている仕事が



魚沼基幹病院の集中治療室。
臓器の提供者（ドナー）は扉
の奥の個室で家族と過ごす

新潟県の女性(4)は、若い頃から、「脳死になつたら臓器を提供しよう」と考えて選択を迫られるとは想像もしていなかつた。

昨年のある週末の夕方、自宅で仕事をしていた夫(当時40歳)から連絡があつた。

「左手に力が入らない。病院に行った方がよさそう。帰ってきてほしい」

夫は中学校の同級生。スポーツマンで、健康診断の結果はいつも「異常なし」。

前日の晩は、夫婦一緒に同窓会に参加し、楽しく過ごした。いつたい何が起きたのだろう。慌てて帰宅した。夫の左手はだらんとしており、それが回らないようだつた。すぐに救急車を要請した。搬送中、夫はしきりに「頭が変な感じ」と繰り返した。右手を握り、「大丈夫、大丈夫」と励ますと、力強く握り返してくれた。

1時間後。夫は、画像検査で、脳出血と診断され、入院となった。

自宅に戻り、子どもたちと寝ようとしていた時、病院から一報が入った。

「意識状態が悪くなりました。緊急手術をします」

病室に駆けつけると、夫はストレッチャーで手術室に向かうところだった。開頭するため頭髪をそられた。声をかけたが、目を開くことはなかった。

手術から2日後、義父と一緒に、治療を担当する脳

サインを頼んだ。
提供しようと考へ始めたのは、テレビで移植医療の特集を見たことがきっかけだ。脳死は、脳の機能が失われ、どんな治療をしても、回復の見込みがなく、やがて心臓が止まる状態だ。「助からないならば、自分の臓器を、誰かの命を救うために役立てほしい」と思つた。

臓器提供に関する夫婦のやりとりは、この時だけ。夫は、自分がどうしたいかは言わなかつた。

1時間後。夫は、画像検査で、脳出血と診断され、入院となつた。

夫の夫婦の思い出がよがよえった。脳死となつた時に、臓器を提供すると決めて、夫に、「臓器提供意思表示カード」の家族署名欄へのサインを頼んだ。

過去のレシピ よみうりグルメ部

時間の日中 12分 / 熱量 427 kcal / 每分 1.5g (1大公升)

代前半が、されざる時、「をかづぎ」は職業として仕事にまことに、も入りきれません。

半の女性。職場の息子さんを自死でました。それを聞いた同僚にどんな受けたらいか悩みました。葬儀後しばらく場に戻り、気をしています。瘦せました。

、自死遺族の出会いの機会がた。その方もを亡くされ、すがる思いで、今はスタッフでいます。そ会のパンフレ

人生案
らいました。

*材料2
そば
カツリ
(乾)
梅田
白ゴマ
*作り方

】内 「自死遺族の会」教えるべきか

「自死遺族の会」教えるべきか
同僚にはたまに、「どうしては食べられてる?」とか
理しないで、しんどい時
休んだ方がいいよ」と
声をかけています。単に力にはなれない事
と、心の痛みは当然
しかわからないことがあります。
理解していますが、それでも心を癒やせ
ら、と思います。

頂いたパンフレット
などがを同僚に渡して
いですか。他の同僚
「まだ時期が早い」
つとしておいてほし
のでは」と言います
会のことと伝えるの
お節介ですか。(Q)

人生案内

(精神科医)

同僚をみんなで気づかって
いる職場の温かさを感じま
した。

身近な人が自死した方
は、いろいろな思いを抱え
てつらい気持ちになります。
もつと何かできたのでは
ないかと後悔したり、自分
が死に追いやったのではな
いかと自分を責めたりしま
す。その気持ちを自分だけ
で抱えて孤立する人も少な
くありません。そうしたと
き、自死で身近な人を急に
亡くすという同じ体験をし
た人たちとの交流はたしか
に心の支えになります。

そのことを、同僚の方に

た方は、そのことを周り伝えるのをためらう場合少なくありません。でもあなたの同僚は職場の仲間に伝えていました。みんながその方のことを心配して守っています。

その方は、その気持ちをきっと感じ取っているといいます。自分のことを困って声をかけているあなたが思ひも理解できるはず。あなたから自死遺族会のパンフレット渡してもらえば、その方は寄添つてもらえたと感じるのではないでしょうか。

「自死遺族の会」教えるべきか

声をかけています。単に力にはなれないことと、心の痛みは当事者しかわからないことが理解していますが、しでも心を癒やすら、と思います。頂いたパンフレットなどを同僚に渡していいですか。他の同僚「まだ時期が早い」つとしておいてほのでは」と言います会のことを伝えるのがお節介ですか。(Q)

